（様式第３号）

住宅改修が必要な理由書　　（P2）

<P1の「総合的状況」を踏まえて、①改善をしようとしている生活動作②具体的な困難状況③改修目的と改修方針④改修項目を具体的に記入してください。>

活動	① 改善をしようとしている生活動作	② ①の具体的な困難な状況（…なので‥で困っている）を記入してください	③ 改修目的・期待効果をチェックした上で、改修の方針（…することで ‥が改善できる）を記入してください		④ 改修項目（改修箇所）
排泄	☐ トイレまでの移動 ☐ トイレ出入口の出入 （扉の開閉を含む） ☐ 便器からの立ち座り（移乗を含む） ☐ 衣服の着脱 ☐ 排泄時の姿勢保持 ☐ 後始末 ☐ その（　　）	生活動作で困っていること、問題点について、その状況や介護の現状を具体的に記述してください。 ・改修案の検討の際はすべての行為についてチェックが必要だが、理由書では改善しようとする行為に限定したコメントでかまいません。 ・生活のどの場面、どの動作が利用者・介助者にとって大変なのか、動作の流れに沿って一つずつ見極める。寝たきりならば「座位が保てるか」、歩行ができれば「段差を越えられるか」などについても記入してください。 ・①のレ点評価と②のコメントの両方を合わせて利用者の状況が伝わるように記入してください。 ・移動について各行為（排泄・入浴・外出）に共通する内容は、たとえば「排泄」の欄のみに記入し、各行為の欄に重複して記	☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他（　　）	①、②を記入し、現状の問題点を踏まえた上で、改修目的の項目をチェックしてください。各行為の困難事項を改善するために、どのような改修を行うのか、その方針を記述してください。 ・改善方法は「手すりの設置」や「段差解消」という表現でなくてもよいです。「つかまる所を」「つまづかない工夫」「立ち上がりの支えを」などの表現でもかまいません。 ・一つの改修項目が複数の目的のために行われる場合はまとめて記述してもかまいません。 ・具体的手段については当事者はもちろん、施工者や専門家と一緒に考えるのが望ましいです。	☐ 手すりの取り付け （　　） （　　） （　　） （　　） ☐（　　） （　　） （　　） （　　） ☐（　　） （　　） （　　） （　　） ☐ （　　） （　　） ☐ その他 （　　） （　　）
入浴	☐ ☐ ☐ ☐） ☐ ☐ ☐ ☐		☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他（　　）		
外出	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 出入口の出入 （扉の開閉を含む） ☐ 出入口から敷地外までの屋外移動 ☐ その他（　　）		☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他（　　）		
その他の行動			☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他（　　）		

現状の改善を必要とする動作についてレ点チェックをしてください。
今回の改修の対象でない項目にはレ点チェックする必要はありません。

さまざまな角度から検討し、決定された改修内容の項目をチェックし、詳細な内容を記述してください。
改修箇所は、場所だけではなく「手すり」なら、「便器横壁面に１本」等その**取り付け箇所、箇所数**まで記述すること。